

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079100162		
法人名	有限会社 北村		
事業所名	グループホーム なかま		
所在地	〒839-0223 福岡県みやま市高田町岩津785番地	0944-22-6568	
自己評価作成日	平成27年10月17日	評価結果確定日	平成27年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今まで長年暮らしてきた生活リズムを崩さず、人間らしく平等で自由に家庭的な日常生活を継続支援し、残された能力を引き出し、ゆったりと落ち着いた不安の無い心で家庭との関わりも密にしながら、又地域の行事や、隣接する地域の方々との交流を深めながら過ごして頂くその実現の為に、小規模で介護の出来る、明るく、快適なグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

みやま市郊外の自然に囲まれた日本の原風景を思い出させる中に、グループホーム「なかま」がある。高齢者が認知症になっても、住み慣れた地域の中で、馴染みの関係を継続しながら、生き生きと暮らせるホームを目指し、代表夫妻が12年前に開設した事業所である。職員は、利用者の思いや不安を受け止め、利用者一人ひとりの立場や状況を理解し、利用者に寄り添い、明るい笑顔で話しかけ、利用者の心を開き、日に日に元気で明るくなる利用者を見守る家族は、驚きと喜びに包まれている。町内会に加入し、隣組の冠婚葬祭や清掃活動に取り組み、地域交流の輪が広がり、介護相談も始まり、地域福祉の拠点として活躍が期待されるグループホーム「なかま」である。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成27年10月29日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・近所へ散歩へ行かれ知り合いの方より花をもらったり、いきいきサロンへ毎月参加をされる、隣組の方と食事をしたり、話したりされる。	ホーム独自の理念を掲げ、玄関に掲示し、職員は常に理念を目にしなが、理念を意識した介護サービスに取り組んでいる。管理者は、職員が笑顔で働き、利用者にも笑顔で暮らしてもらう事が大切である事を職員に伝え、「地域社会と交流し、自分らしさを継続し、心より笑える生活」に、全員で取り組んでいる。	開設12年目を迎え、職員も定着し、理念に沿った介護サービスが実践されているが、年月を重ねても慣れてしまいう事無く、初心に返って、改めて理念の確認を行う機会を定期的を持つ事を期待する。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に入って、葬式の世話や、缶拾い等行っている。市営住宅の人を送迎している。お宮の清掃に、第三日曜日に参加している。	隣組に加入し、毎月の神社の清掃や地域の敬老会に参加し、いきいきふれあいサロンには、近隣の方の送迎を依頼され、一緒に参加している。これまで地域の一員となるようにコツコツと頑張ってきた努力がようやく実り、毎月、ホーム玄関の絵手紙を入れ替えに訪問される方、花を持参してくれる近所の方等に支えられている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・中学生のボランティアを受け入れているので、少しずつ理解されてきている。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	・軽い人は車椅子からソファ等に移されるのがいいと言って頂き今も続けている。 ・オムツ券が八月よりオムツ施行され、使用してある方は可能になり、直ぐ手続きされ喜ばれる。	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、利用者代表、家族代表、民生委員、市職員の参加がある。「なかま新聞」に沿って行事の説明を行い、避難訓練について話し合ったり、介護保険課よりオムツ券についての話をしてもらう等、情報交換の場となっている。会議の中で出された意見は検討し、サービスの向上に活かしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・毎月、運営推進会議と2カ月に1回高田町グループホーム協議会等があり、市役所からも係長に参加して頂いている。 ・場所が社協もあるので。	高田町の3ヶ所のグループホームと市の職員、民生委員が集まって、高田町グループホーム協議会を組織している。年6回話し合いを行い、各事業所のそれぞれの立場からの意見や情報交換を行っている。また、運営推進会議に、行政職員が出席し、ホームの実情を伝え、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・拘束をしない為に、Dルームにて休んでいただいたり、ドアから見える位置にスタッフが座って観察している。	日常生活の中で、言葉かけや対応に気を配り、職員同士で気づきを伝え合える関係を築き、会議の場においても常に確認をしながら、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。また、利用者にデイルームで休んでもらったり、利用者が見える所に職員が座る等、見守りを強化する事で、拘束をしていないケアに繋がっている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は、言葉の暴力もそうである事を話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・家族の方で、後見人になられた方もある。	以前、制度を活用していた利用者が居られたため、後見人とのやり取りの中で、制度についての理解を深める事が出来ている。制度についての勉強会を開き、制度の重要性を理解し、必要時には、制度の説明や申請手続きの支援が出来る体制を整えている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・2割負担になる時扶養を外すと言われましたが、範囲内である事を説明する。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・昔は、どこの家も実のある木があったので、植えてほしいとの事でいちぢく、柿、栗、さくらんぼ、アンズ等を植えている。又、畑は利用者さん希望でサツマイモと玉ねぎ、ネギ、ニラ等を植えている。	日常の関わりの中で、利用者の思いや意向を聞き取り、職員間で共有している。また、家族の面会が多く、面会時や行事、運営推進会議への参加等に、家族の意見や要望を聴いている。写真を多く載せた「なかま新聞」を家族に送付し、電話等でも密に話し合い、家族の安心に繋げている。出された意見は出来るだけ運営に反映している。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・公休の希望が欲しいとの事で4回までは希望OKと個人交代もお互いに交渉が成立すれば可能としている。	朝夕の申し送り時や日常の業務の中で、職員は意見や気づきを話し合い、連絡簿にて情報を共有している。必要時に全員での会議を開催し、活発な意見交換が行われ、職員の意見は反映されている。今年、職員の提案により、初めて取り組んだ運動会は、紅白に分かれてパン食いや飴食い競争、玉入れ等で大変盛り上がった。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・勤務は勤務時間、準夜帯と交代がきちっと出来る様心掛けている。又ケアマネジャー等の試験等も考慮している。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	・採用にあたって性別や、年齢は不問としている。	職員の募集は、年齢や性別、資格等の制限はなく、介護に対する考え等を優先して採用している。職員休憩室やロッカーを整備し、希望休(月4日)や勤務体制に配慮して、働きやすい職場作りに取り組み、職員の離職はほとんどなく、資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員が意欲的に働ける就労環境である。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・新人教育時や必要に応じて教育している。	人権に関しての外部研修を受講した職員が、内部で伝達研修を行い、利用者の人権に対しての意識の統一を図っている。職員は、言葉遣いや対応に注意し、利用者の尊厳や権利が守られた暮らしの支援に取り組んでいる。また、いきいきふれあいサロンに出かける等して、地域の一員としての生活を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・その人その人の能力や介護の力量に合わせて、研修を受けてもらっている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・隔月に高田町グループホーム連絡協議会を開催し、お互いの良い所を報告しあい自ら取り入れている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・十分に時間をかけてその人に、寄り添い会話を密にしているので、取られ妄想などが減少している。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族のかかえている問題を十分に聞く事により、ここに入居して良かったという言葉が聞けている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・竹の子の山に散歩をかねて出かけ、息子さんの作業を見たり。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・食事の下ごしらえ等を取り入れラッキョのそろえ方や梅干しの漬け方等を教わったり、共に漬けている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・毎週一回面会に来て頂いて会話をして頂いたり、介護は出来ないので、草刈りに来て頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・お寺参りに行ったり、ふれあいイキイキサロンに出かけたり、敬老会にもお連れして面会を喜んで頂いている。	家族が案内を持って来られて、地元の敬老会に参加したり、馴染みの美容室の送迎を受けて定期的に利用したり、毎月のいきいきふれあいサロンへの参加等、利用者が築いてきた人や場所との関係が、ホーム入居で途切れないように支援している。利用者の知人や友人、親戚等の面会は、家族の了解を得て、ゆっくり寛げる雰囲気の中で、楽しい時間を過ごしてもらえよう支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・気の合う利用者さんと一緒にソファにしたり散歩で、スタッフが入って会話して関わり合いを大切にしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・経済的理由から特老に行かれたが、利用者さん時々おはぎが好きだったので面会に行っている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・花が好きなので花を取りに行っある。 ・ゴーヤ等の収穫を喜んでもらっている。	職員は、日頃の利用者との関わりの中から、思いや意向を聴き取り、全職員で共有し、一人ひとりを尊重したその方らしい暮らしが送れるよう支援している。また、意思を伝えられない利用者については、家族と相談し、利用者に寄り添い、声掛けをして、利用者の表情や仕草から、利用者の思いを汲み取る工夫をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時に一人一人の本人や家族からの情報収集に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・女性なので、食事の下ごしらえ等は特に喜ぶるが、包丁などは難しい人もいて、能力に応じている。 ・もやし揃えが好きなので、もやし料理が最近増えている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ケアプランを作成したらミーティングにかけて意見やアイデアを反映している。	利用者や家族の意見や要望を聴きながら、カンファレンスの中で話し合い、利用者一人ひとりに合わせた介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の急変や状態変化があった場合は、その都度家族と話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・毎日の記録も密にしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・目薬や化粧品が無いと言われた時は購入する等の、介助に心掛けている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・買い物一緒に行ったりしている。いきいきサロンなどに参加したり、アイスクリームツアーに行ったり。大蛇山にも来て頂いている。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・受診は今までかかってあった病院を大切に受診している。	利用者や家族の希望を大切にして、入居前までの馴染みのかかりつけ医を受診している。原則、家族対応でお願いしているが、必要時には看護師である管理者が同行し、結果を家族に報告して情報を共有している。往診体制が整った提携医療機関と連携し、24時間安心できる体制を整えている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・毎日のカンファレンスや申し送りも密にしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・その病院より往診にも来て頂いたり、一日に一回は面会を心掛けている。洗濯も依頼されている。 ・グループホームは、受診の時TELしていると、その時受けて頂いて待ち時間を短くして頂く。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・なるだけ施設で見て欲しいと要望に答えている。早目の話し合いを心掛けている。	契約時に利用者や家族と話し合い、終末期の介護について説明し、承諾を得ている。その方の持っている疾患や家族の状況等、一人ひとり条件が違う為、終末期が近づいた時に改めて意向を尋ね、方針を決めている。主治医と連携し、職員全員が一丸となって、看取り介護に取り組み、安心して終末期を過ごせる体制を整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・急変時の対応の勉強会や指導をしている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・年に2回の火災訓練及びあたご荘への避難等、全員確認、地域からも連額が密である。 (民生委員さんや、格区長さん等)	年2回消防署の協力を得て、昼夜を想定した避難訓練を実施し、ベランダと南口の2ヶ所から庭に避難する事を確認している。通報装置や消火器の使い方の訓練や非常時に備えて非常食の備蓄も行っている。近くの消防団員や近所の職員、近隣住民との協力体制を築いている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・人権の尊重とプライバシーの確保は守っていて、言葉かけも丁寧である。	職員は、経験豊富な人生の先輩である利用者から、色々な事を学び、利用者を敬う気持ちを持って、日々の暮らしを支援している。職員は、声の大きさや、あからさまな介護にならないように気をつけ、プライドや羞恥心に配慮した介護に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いにも注意している。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・殆んど自分の意思決定により外への散歩や更衣なども行っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ぬり絵やパズルなども希望に応じて頂いているし、洗濯量などそれぞれに支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・入浴時も、自己決定を大切に洋服も持参して頂いたり、選んで頂いている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・食事の準備等、そろえ物はもう少し取って来んね等言われたりしている。	調理担当の職員を2名配置し、庭の畑で収穫した新鮮な野菜を採り入れた美味しい食事を提供している。食事は、利用者の力の発揮や参加出来る場と捉え、料理の下拵え(もやしの根切り等)や食事の片付けを手伝ってもらっている。たこ焼きパーティーやお団子作り等、レクを兼ねて、楽しく食事が出来る雰囲気作りに取り組み、利用者は、「美味しいね」を連発しながら食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・10時のおやつ時も、ミルクが消化がいいと言う事で取り入れたり、いりこをすったりして努力している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・歯科治療後アフターケアもして頂いている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレ誘導は訴えの無い人は3Hごとに誘導しているのが、やもうえずオムツの方もいる。	利用者の 重度化が進み、トイレで排泄する事が困難な場合もあるが、要介護5の方も出来るだけトイレに誘導している。一人ひとりのパターンを把握して、長く座ってもらう等、個々への対応を工夫しながらトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。10時と15時の一日2回、室内散歩の時間を設け、しっかり歩いてもらう事で下肢筋力の低下を防ぎ、排泄の自立の維持を目指している。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・トイレにゆっくり座る事により、排泄可能な方もあり個別的に取り組んでいる。立ったり座ったりの運動に心掛けている。又便秘傾向の方はバナナジュース等で排便される方もいる。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・声掛けをして入って頂いている。拒否される時は時間を置いて再度促している。	入浴は午後からとし、入浴帳を付けて確認しながら、基本的には週3回程度入ってもらっている。3方向から介助出来る浴槽配置により、安全に配慮した支援を行っている。拒否される利用者には、「明日、病院だから」等、声掛けを工夫しながら、無理強いのない入浴の支援をしている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・早寝早起きの人が多く8時頃は自室に自ら帰られる。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・認知症のメモリーや血圧の薬などは注意して観察している。副作用に注意が必要な時はしばらく壁に張ったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・お花の好きな利用者は花を、掃除好きな利用者は食事の下ごしらえも包丁を使える人と玉ねぎの皮をむいてもらう等。らっきょそろえも、揃えてもらって、その後スタッフが見えない所で整えたりしている。又甘い塩分の少ない梅干しは、食べて頂いている。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	・いきいきサロンなどに参加しや敬老会などコンサートの誘い等声かけて頂く。お茶会などにも参加している。 ・選挙にも投票しに行くと言われるためスタッフが同行した。	ホームの周りを毎日のように散歩したり、庭の手入れや野菜の収穫等を楽しみ、出来るだけ戸外に出られるよう支援している。また、地域の行事や、いきいきふれあいサロン、季節毎の花見、お茶会、コンサート等に出かけ、職員が買い物に行くのに利用者が同行する事も多く、日常的に外出できるよう取り組んでいる。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・自分で財布をもってある方もあり、目薬や冬のホッカロン、菓子、化粧品を買われる方もある。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話希望時はかけて頂いている。誕生日や敬老の日には特に多い。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・採光に対しては直接顔等に太陽があたらない様、短いカーテンを利用して工夫している。	広い敷地の中に、利用者や家族の要望で、無花果やサクランボ、アンズ等実のなる木や、さつま芋等の野菜を植えたり、花の好きな方のために花壇を造る等して、利用者がホッとできる環境作りに取り組んでいる。また、毎月、利用者が作る季節感のあるカレンダーや、小物や生花を飾り、季節感、生活感を採り入れた家庭的な共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・廊下の隅に、長椅子を置いている所で、2~3人で話したりされる。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・ソファを持ち込んだり使い慣れたタンスやマッサージチェアを持ってある。	「家にある物、何でも持って来て下さい」と声掛けし、使い慣れた馴染みの家具や大切な物を持ち込んでもらい、利用者が安心して、穏やかに過ごせるよう支援している。また、換気や清掃をこまめに行い、利用者が気持ち良く過ごす事が出来るよう工夫している。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・自力では立ち上がる事や歩行が出来ない方は、歩行器を使用して自由に部屋へ行ったり、外を眺めたり、トイレに行ったりされてある。		